

自動漢字テスト作成 for Word 操作マニュアル

第 1.1 版

2020 年 6 月 19 日

オーク・テクニカル・ソフト

改訂履歷

[illegible]

目 次

はじめに	1
1. リボンユーザーインターフェースについて	2
2. 初期設定	3
3. 問題作成操作	6
3.1. おまかせ作成	8
3.2. すべて作成	10
3.3. 選択作成	11
4. 編集操作	13
4.1. 解答表示	13
4.2. 部分戻し	14
5. 共通操作	15
5.1. 元に戻す	15
5.2. やり直し	15

はじめに

本ソフトウェアは Microsoft Word 2007（以下、Word 2007）以降のバージョンでの動作を前提としており、それ以前のバージョン（Word 2000、2002、2003 など）では申し訳ございませんが動作いたしません。

また、本ソフトウェアはフリーソフトウェアですが、一部の機能（おまかせ作成）をご使用になるには有料ソフトウェア「自動ルビ振り for Word（バージョン 3.0 以降）」がインストールされ、ユーザー登録されている必要があります。「自動ルビ振り for Word」については、オンラインソフトウェア流通サイト Vector（ベクター）の下記 Web サイトをご覧ください。

<https://www.vector.co.jp/soft/winnt/writing/se504700.html>

1. リボンユーザーインターフェースについて

すべての操作は、リボンユーザーインターフェースの[漢字テスト作成]タブ内に配置されたコマンドから行います。

[漢字テスト作成]タブは、[問題作成]、[編集]、[ユーザー設定]、[その他]の4つのグループから構成されています。[問題作成]グループには3つの漢字テスト問題作成コマンドが配置されています。[編集]グループにはテスト問題作成後に部分的に編集し直すための2つのコマンドが配置されています。[ユーザー設定]グループにはオプション設定を行うダイアログ表示のためのコマンドが配置され、[その他]グループにはバージョン情報を表示するためのコマンドが配置されています。

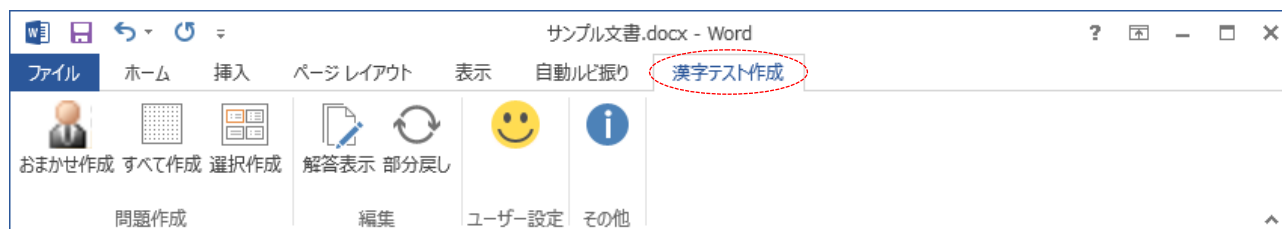


図 1-1 [漢字テスト作成]タブの構成

2. 初期設定

ユーザー固有のオプション設定は、[ユーザー設定]ダイアログで行います。本章では、[ユーザー設定]ダイアログの設定項目について説明します。インストール後、一度も更新していなければ 図 2-1 のように初期状態で表示されます。

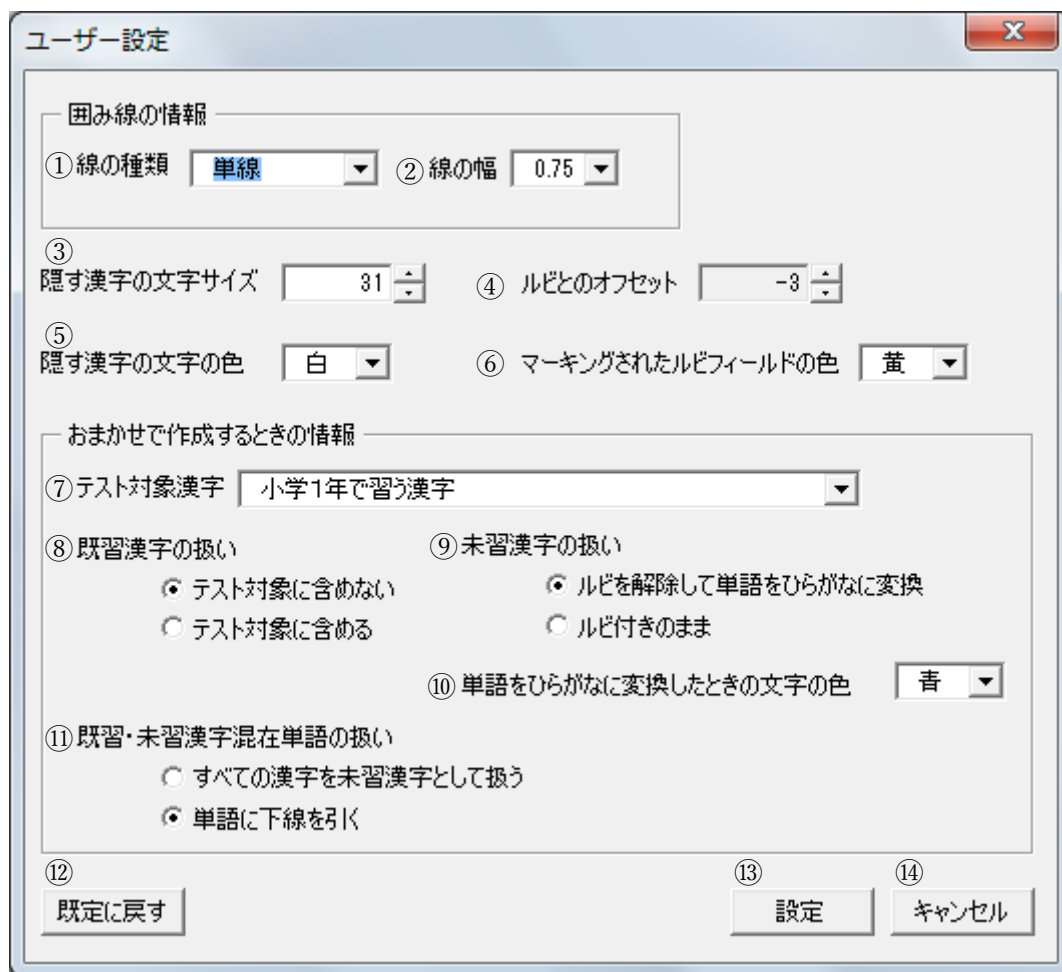


図 2-1 [ユーザー設定]ダイアログ

[囲み線の情報]：漢字を記入する範囲を囲む罫線の情報です。

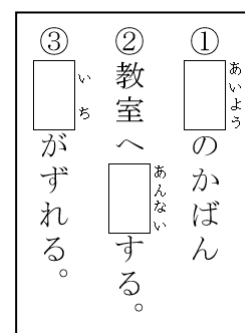
① [線の種類]：

線の種類を「線なし」、「単線」、「点線」、「破線 1」、「破線 2」、「一点鎖線」、「二点鎖線」、「二重線」、「三重線」から選択します。

初期状態は「単線」に選択されています。

② [線の幅]：

線の幅を「0.25」、「0.50」、「0.75」、「1.00」、「1.50」、「2.25」、「3.00」から選択します。単位はポイントで、初期状態は「0.75」に選択されています。



以上、[囲み線情報]

③ [隠す漢字の文字サイズ]：隠す文字のサイズを単位ポイントで設定します。初期状態は「0」で、元の漢字の文字サイズを意味します。

④ [ルビとのオフセット]：隠す漢字とルビとの間の空き量を単位ポイントで、「0」、正の整数、負の整数で設定します。③ [隠す漢字の文字サイズ] の内容が「0」以外のとき有効です。

⑤ [隠す漢字の文字の色] :

囲み線で囲まれる単語（漢字の文字列）の文字の色を「白」、「赤」、「青」、「緑」、「黄」から選択します。初期状態は、非表示になることを考慮し「白」に選択されています。

⑥ [マーキングされたルビフィールドの色] :

[選択作成]コマンドをクリックしたとき参照する項目で、テスト対象のルビフィールドの色を「赤」、「青」、「緑」、「黄」から選択します。初期状態は「黄」に選択されています。

ルビフィールドとは

ルビが振られている単語とルビ(ふりがな)のセットを指します。

右に示す文の点線で囲まれた部分がルビフィールドです。

きょう	よ	てんき
今日	は	良い天気

です。

[おまかせで作成するときの情報]: [おまかせ作成]コマンドをクリックしたとき参照する情報です。

⑦ [テスト対象漢字] :

どの学年で習う漢字をテストするのか、漢字を習う学年を選択します。選択範囲内のルビフィールドで、選択した学年の漢字（オプションの設定により、選択した学年より低学年で習う漢字も対象）を含むルビフィールドがテスト対象になります。以下に示す学年から選択します。

「小学1年で習う漢字」

「小学2年で習う漢字」

「小学3年で習う漢字」

「小学4年で習う漢字」

「小学5年で習う漢字」

「小学6年で習う漢字」

「中学で習う漢字」

初期状態は「小学1年で習う漢字」に選択されています。

⑧ [既習漢字の扱い] :

ルビフィールド内の単語を構成する漢字について、すべて⑦[テスト対象漢字]で指定した学年より低学年で習う漢字の場合の扱いを選択します。「テスト対象に含めない」を選択した場合、テスト対象から除外し、ルビフィールドを解除（ルビを削除）します。「テスト対象に含める」を選択した場合、テスト対象のルビフィールドとして扱います。初期状態は「テスト対象に含めない」が選択されています。

なお、単語を構成する漢字について、⑦[テスト対象漢字]で指定した学年で習う漢字とより低学年で習う漢字が混在する場合、無条件でテスト対象のルビフィールドになります。

⑨ [未習漢字の扱い] :

ルビフィールド内の単語を構成する漢字が、すべて⑦[テスト対象漢字]で指定した学年より高学年で習う漢字の場合の扱いを選択します。「ルビを解除して単語をひらがなに変換」を選択した場合、ルビフィールドを解除し、単語をひらがなに置き換えます。「ルビ付きのまま」を選択した場合、ルビフィールドはそのままの状態が残します。初期状態は「ルビを解除して単語をひらがなに変換」が選択されています。

⑩ [単語をひらがなに変換したときの文字の色] :

⑨[未習漢字の扱い]で「ルビを解除して単語をひらがなに変換」を選択した場合に有効で、「黒」、「赤」、「青」、「緑」、「黄」から選択します。未習漢字であることを視覚的に判断可能にします。初期状態は「青」が選択されています。

⑪ [既習・未習漢字混在単語の扱い]：

ルビフィールド内の単語を構成する漢字について、⑦[テスト対象漢字]で選択した学年（またはより低学年）で習う漢字とより高学年で習う漢字が混在する場合の扱いを選択します。

「すべての漢字を未習漢字として扱う」を選択した場合、⑨[未習漢字の扱い]の内容を参照してください。「単語に下線を引く」を選択した場合、ルビフィールドはそのままの状態に残し、単語に下線（縦組みの場合は右線）が引かれます。初期状態は「単語に下線を引く」が選択されています。

以上、[おまかせで作成するときの情報]

⑫ [既定に戻す]：すべての設定項目が既定の値（インストール時の内容）に設定されます。

⑬ [設定]：クリックすると選択が有効になり、ダイアログは閉じます。

⑭ [キャンセル]：クリックすると選択が無効になり、ダイアログは閉じます。

3.問題作成操作

漢字テスト問題作成（以下、問題作成）は、①おまかせ作成、②すべて作成、③選択作成、の3機能存在し、最初の操作はすべての機能共通で、問題を作成する範囲を選択します。対象範囲を選択しない状態で問題作成を操作すると、文章全体が選択されたものと判断されます。

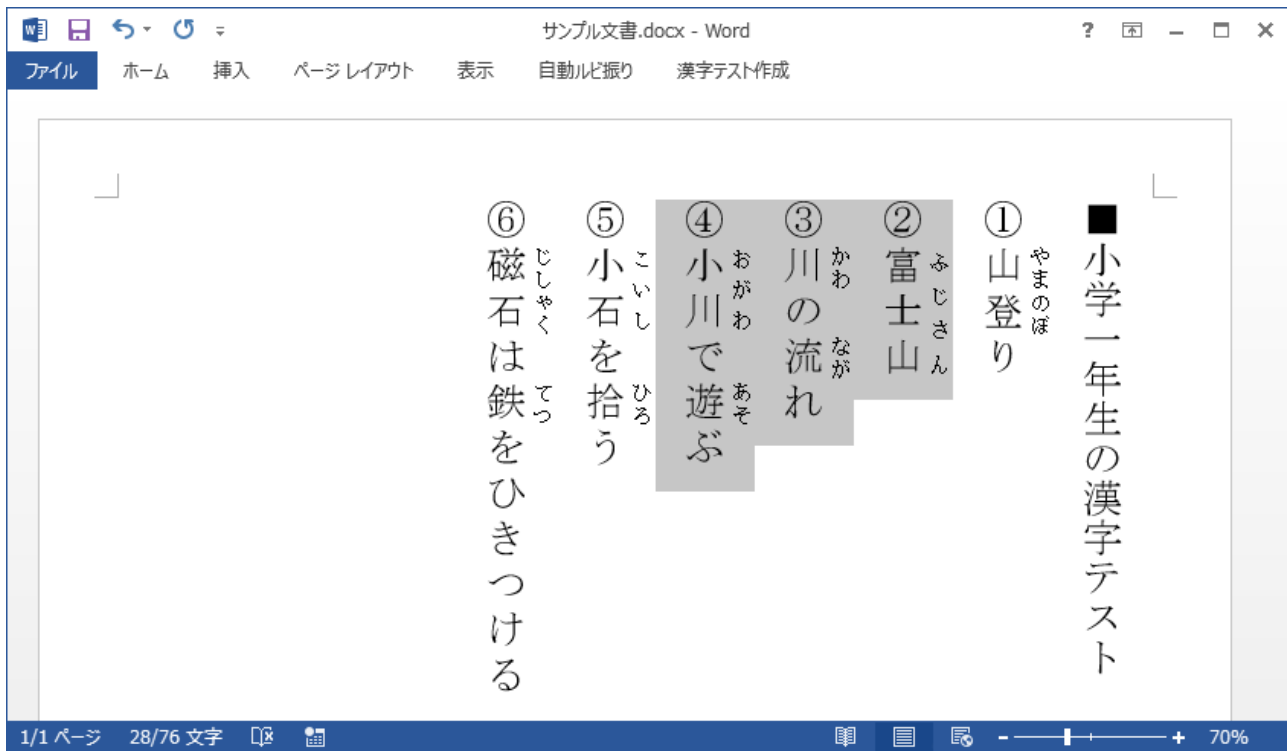


図 3-1 対象範囲を選択した状態

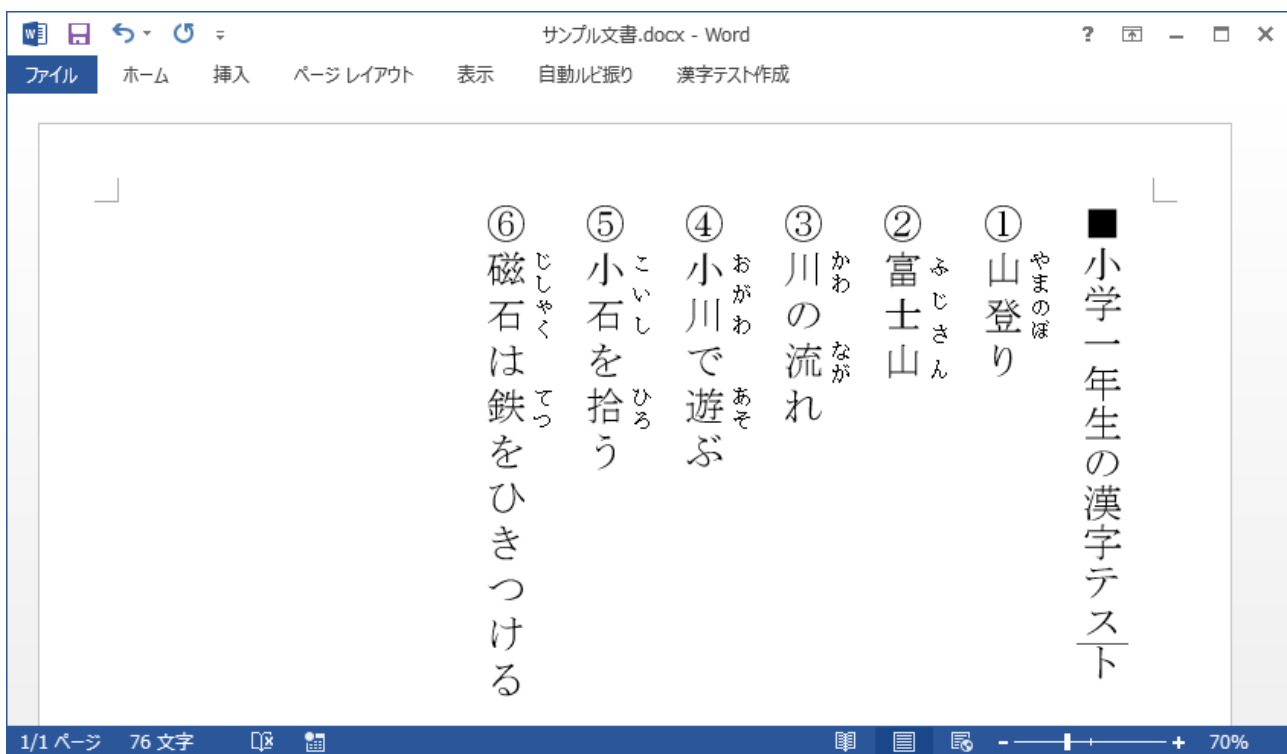
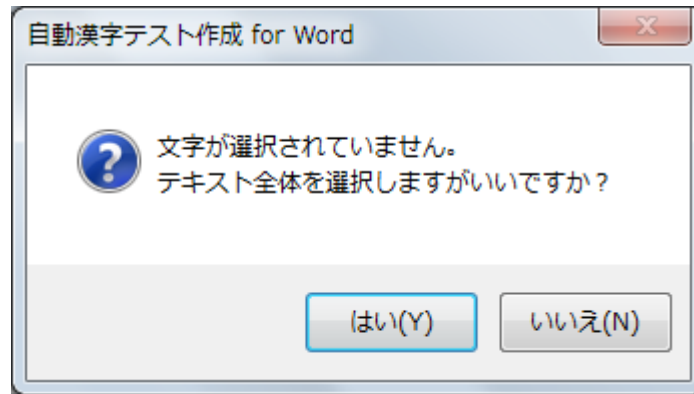


図 3-2 対象範囲を選択しない状態

図 3-2 の状態で問題作成を操作すると、確認メッセージが表示されます。



[はい]ボタンをクリックすると処理は継続し、[いいえ]ボタンをクリックすると処理は中断されます。次頁以降、機能別に操作方法および処理内容を説明します。なお、オプションの設定内容は、図 2-1 で表示されている内容のとおりとします。

3.1. おまかせ作成

(1) 問題を作成する範囲を選択し、[おまかせ作成]コマンドをクリックします。

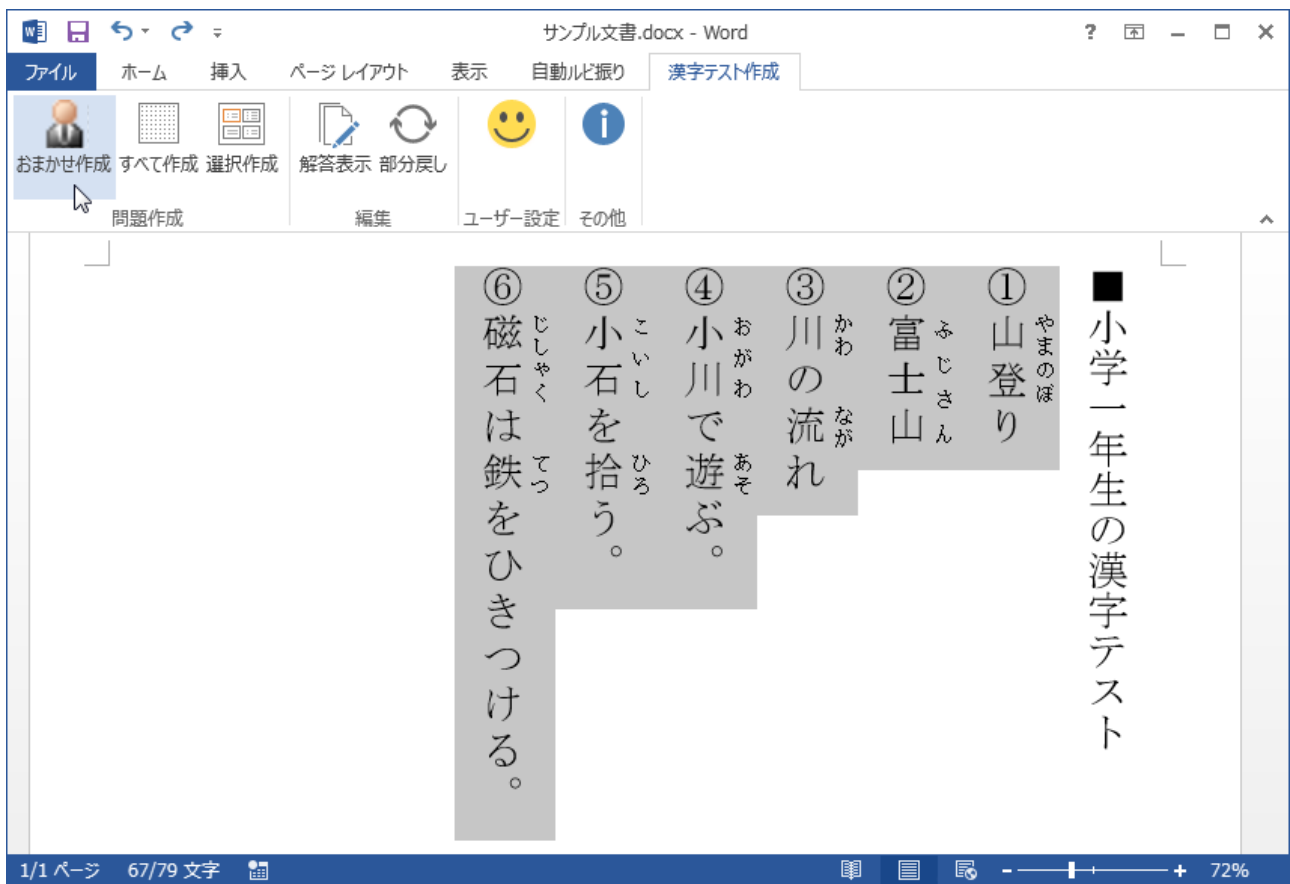
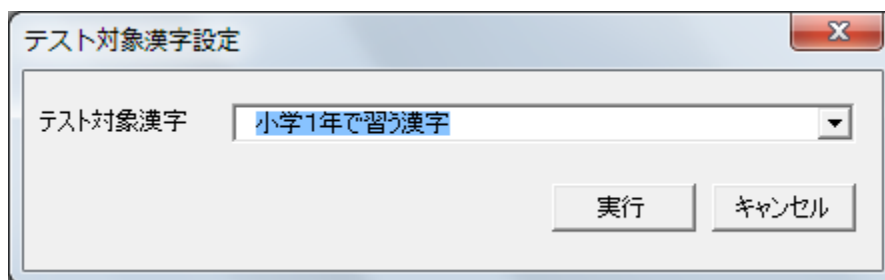


図 3-3 おまかせ作成操作前の状態

⇒ [テスト対象漢字設定]ダイアログが表示されます。



(2) テスト対象漢字を選択し、[実行]ボタンをクリックすると、おまかせ作成が実行されます。

例のダイアログでは「小学1年で習う漢字」が選択されています。

[キャンセル]ボタンをクリックすると処理は中断されます。

図 3-4 におまかせ作成操作後の状態を示します。

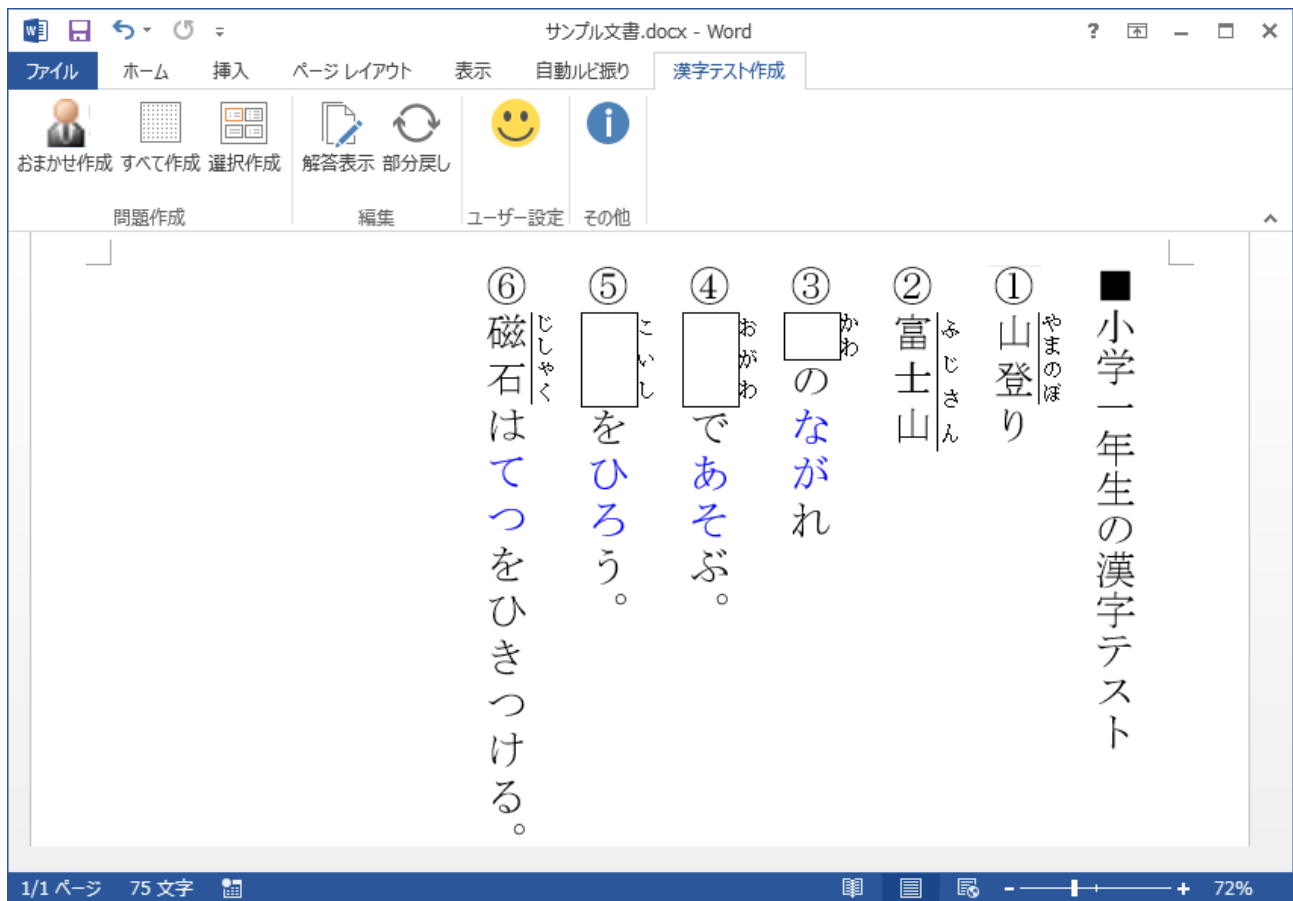


図 3-4 おまかせ作成操作後の状態

処理の説明

- 文①②⑥の右線（レイアウトが横組の場合は下線）は、単語内に既習漢字と未習漢字が混在していることを意味します。文①で、「山」は小学1年で習う漢字ですが、「登」は小学3年で習う漢字です。文②で、「富」は小学4年で、「士」は小学5年で、「山」は小学1年で習う漢字です。文⑥で、「磁」は小学6年で習う漢字、「石」は小学1年で習う漢字です。
- 文③④⑤の囲み線で囲まれた部分が作成された問題です。図 3-3 で、文③の「川」、文④の「小川」、文⑤の「小石」、単語を構成するすべての漢字が小学1年で習う漢字です。
- 文③④⑤⑥の青色部分の文字列は、未習の漢字「流」「遊」「拾」「鉄」をひらがなに変換したことを意味します。

3.2. すべて作成

問題を作成する範囲を選択し、[すべて作成]コマンドをクリックすると、選択したすべてのルビフィードから問題が作成されます。図 3-5、図 3-6 に操作前後の状態を示します。

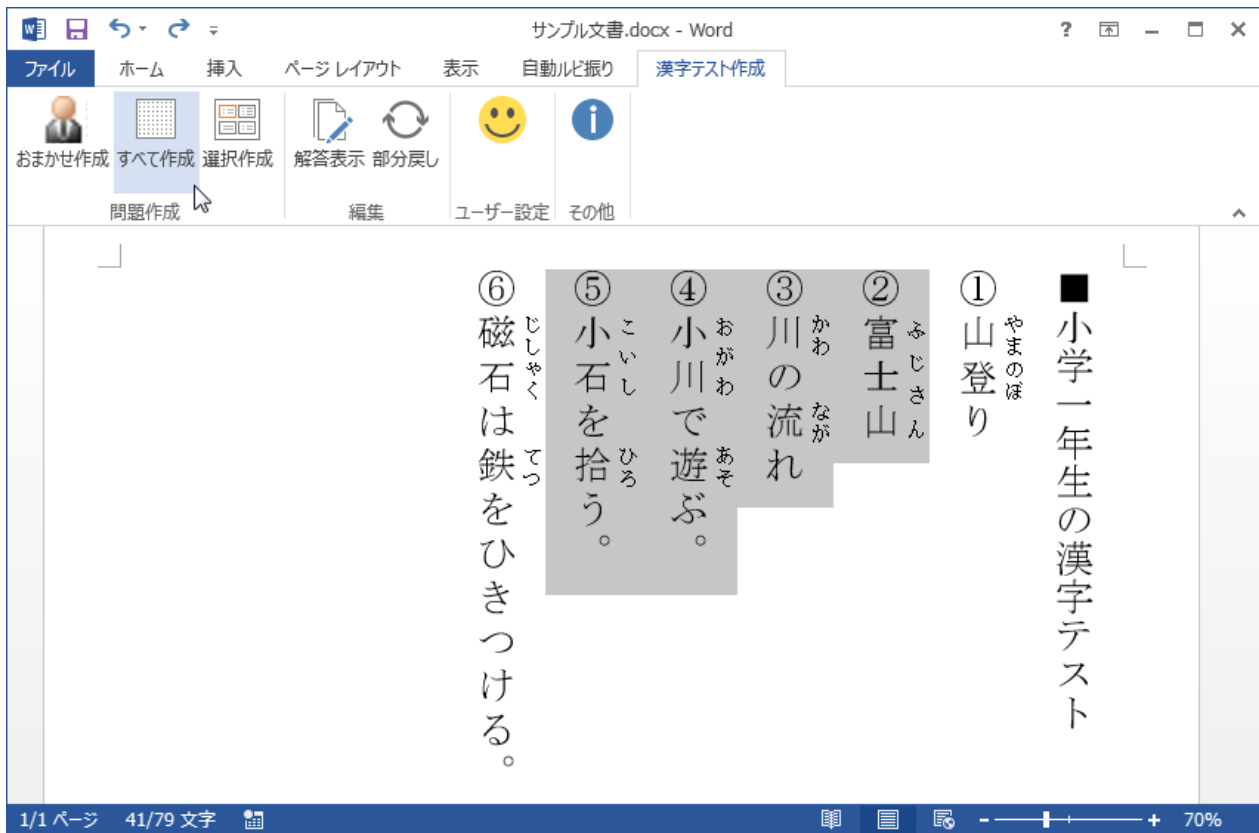


図 3-5 すべて作成操作前の状態

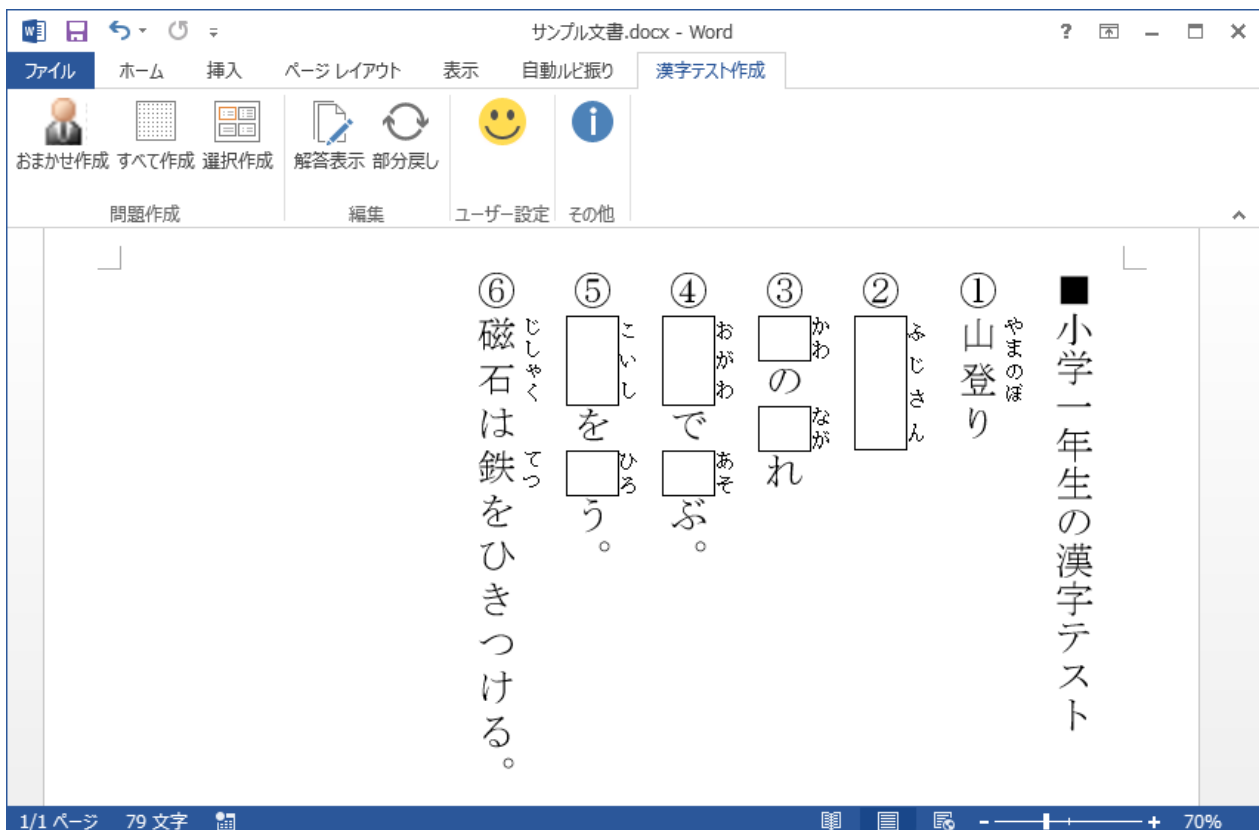


図 3-6 すべて作成操作後の状態

3.3. 選択作成

(1) 問題を作成する対象のルビフィールドを図 2-1 で選択した色でマーキング(蛍光ペン)します。

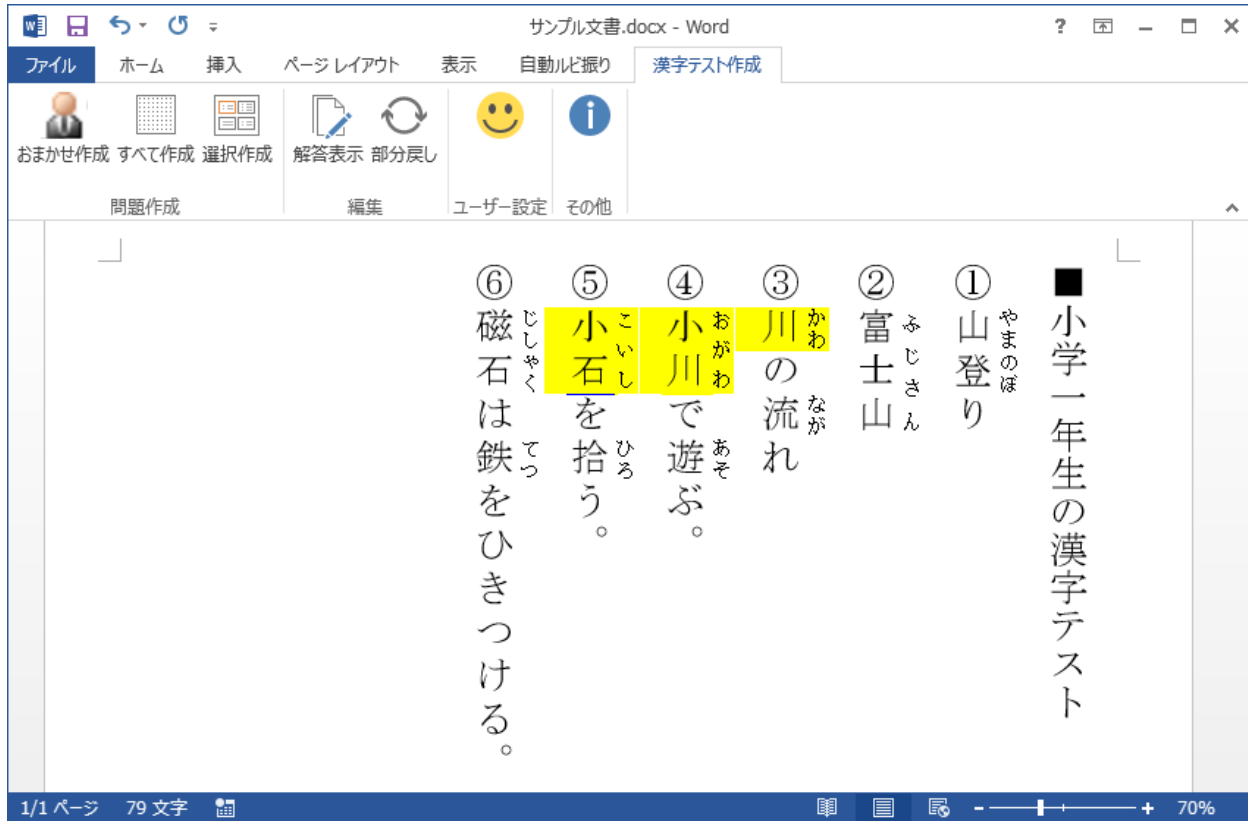


図 3-7 ルビフィールドをマーキングした状態

(2) 問題を作成する範囲を選択し、[選択作成]コマンドをクリックすると、選択範囲内のマーキングされたルビフィールドから問題が作成されます。図 3-8、図 3-9 に操作前後の状態を示します。



図 3-8 選択作成操作前の状態

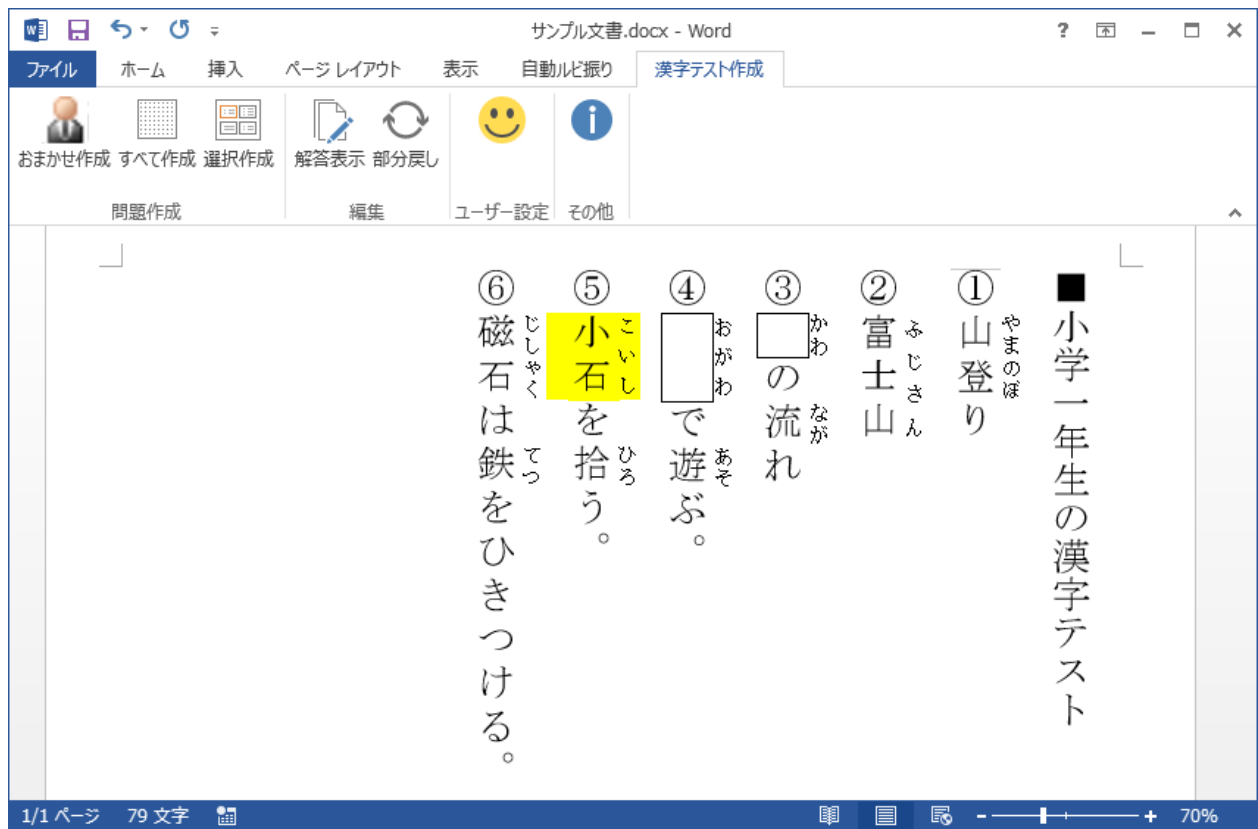


図 3-9 選択作成操作後の状態

処理の説明

図 3-8 で選択された文①から文④内のマーキングされたルビフィールドが処理された。
 文⑤のマーキングされたルビフィールド「小石（こいし）」は選択範囲外なので処理されなかった。

4.編集操作

4.1. 解答表示

[解答表示]コマンドをクリックすると、選択範囲内の囲み線で囲まれたルビフィールドの非表示の単語が表示されます。図 4-1、図 4-2 に操作前後の状態を示します。

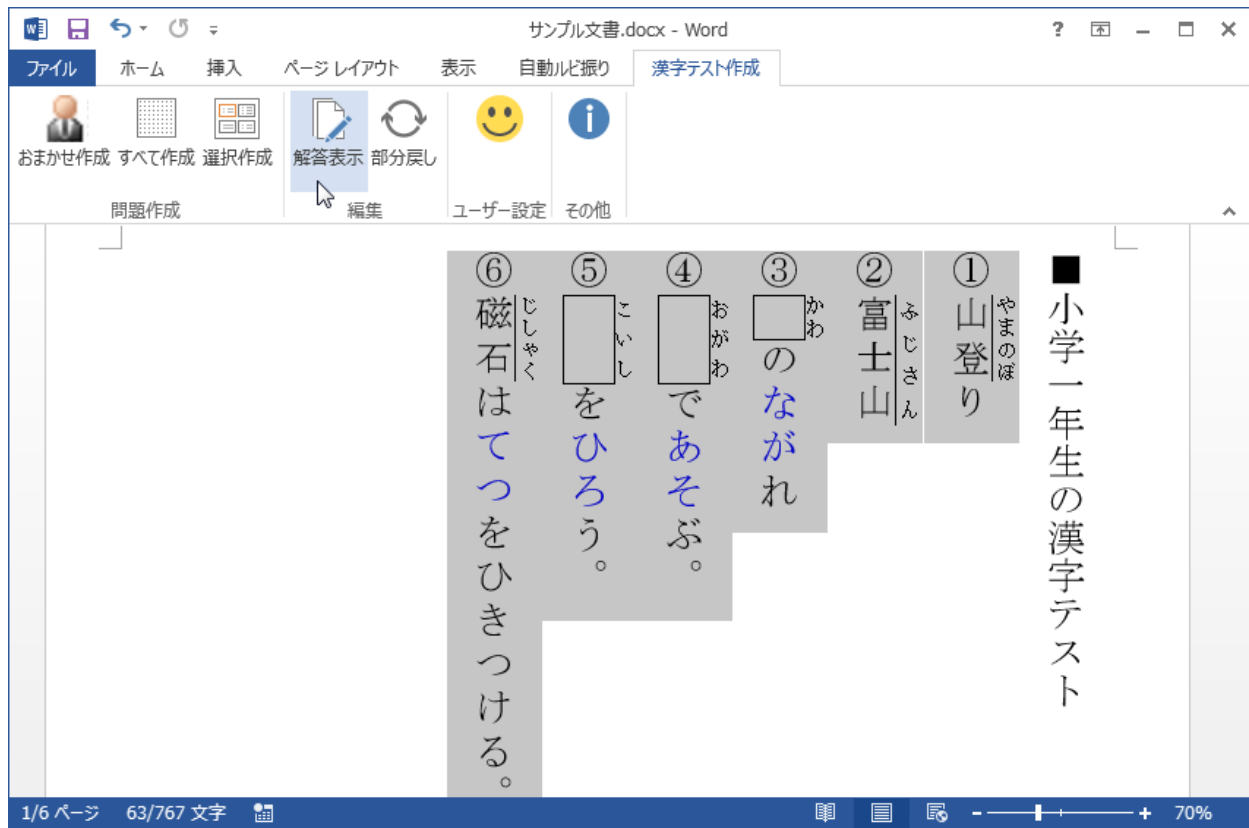


図 4-1 解答表示操作前の状態

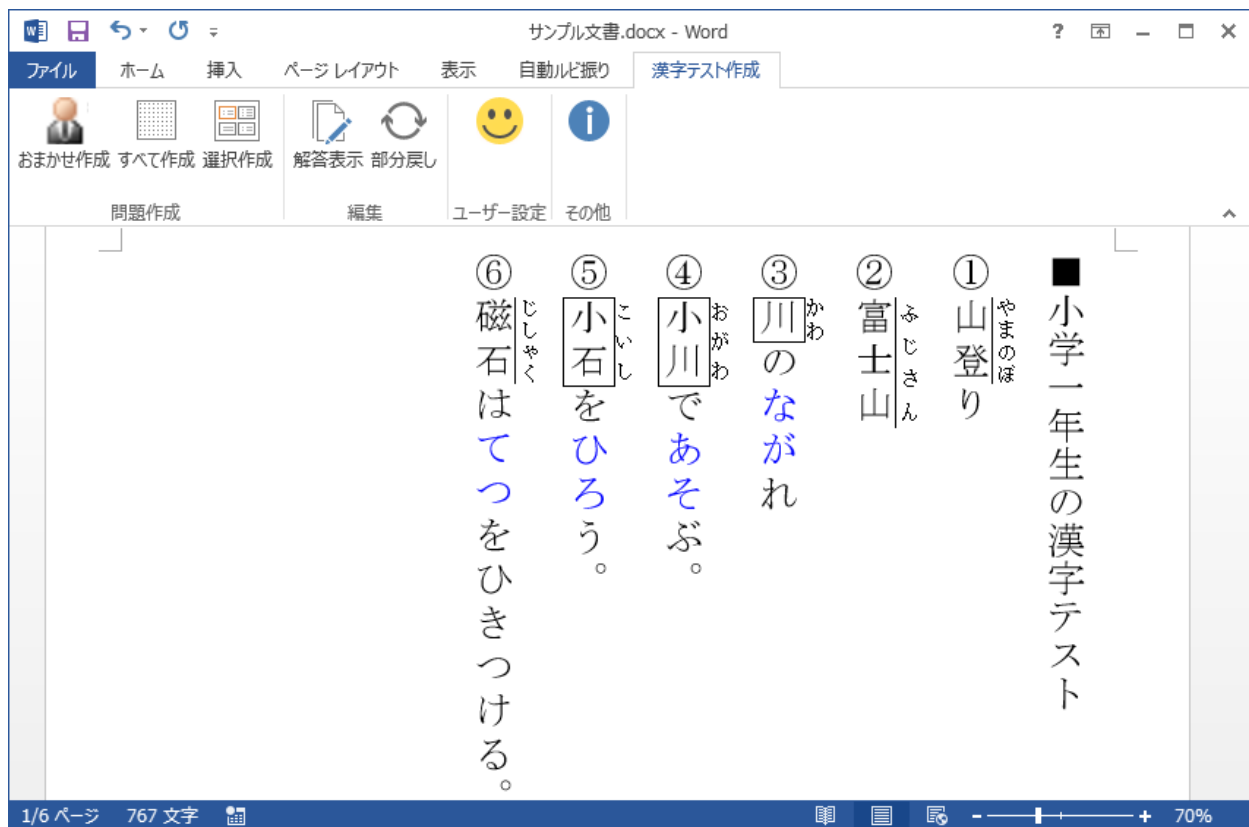


図 4-2 解答表示操作後の状態

4.2. 部分戻し

[部分戻し]コマンドをクリックすると、選択範囲内の囲み線で囲まれたルビフィールドおよび下線の引かれているルビフィールドが操作前の状態に戻されます。図 4-3、図 4-4 に操作前後の状態を示します。

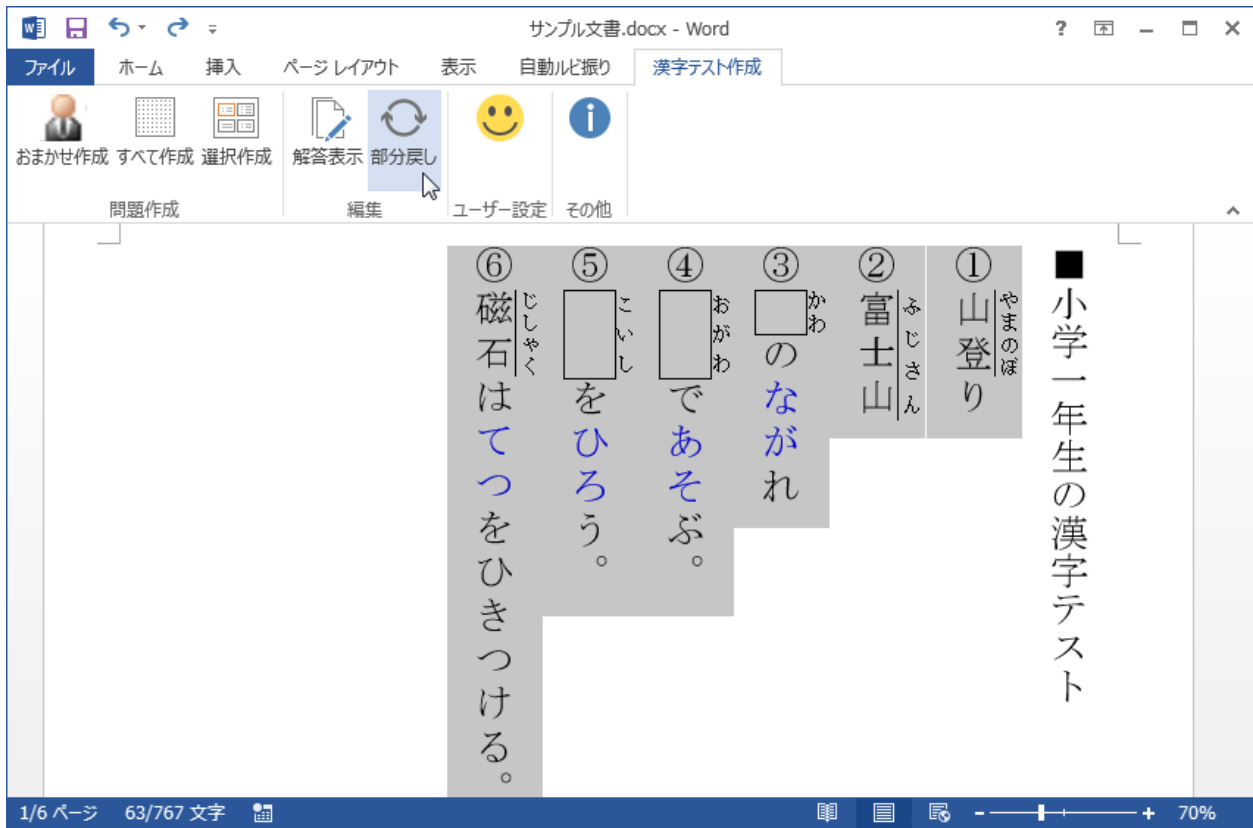


図 4-3 部分戻し操作前の状態

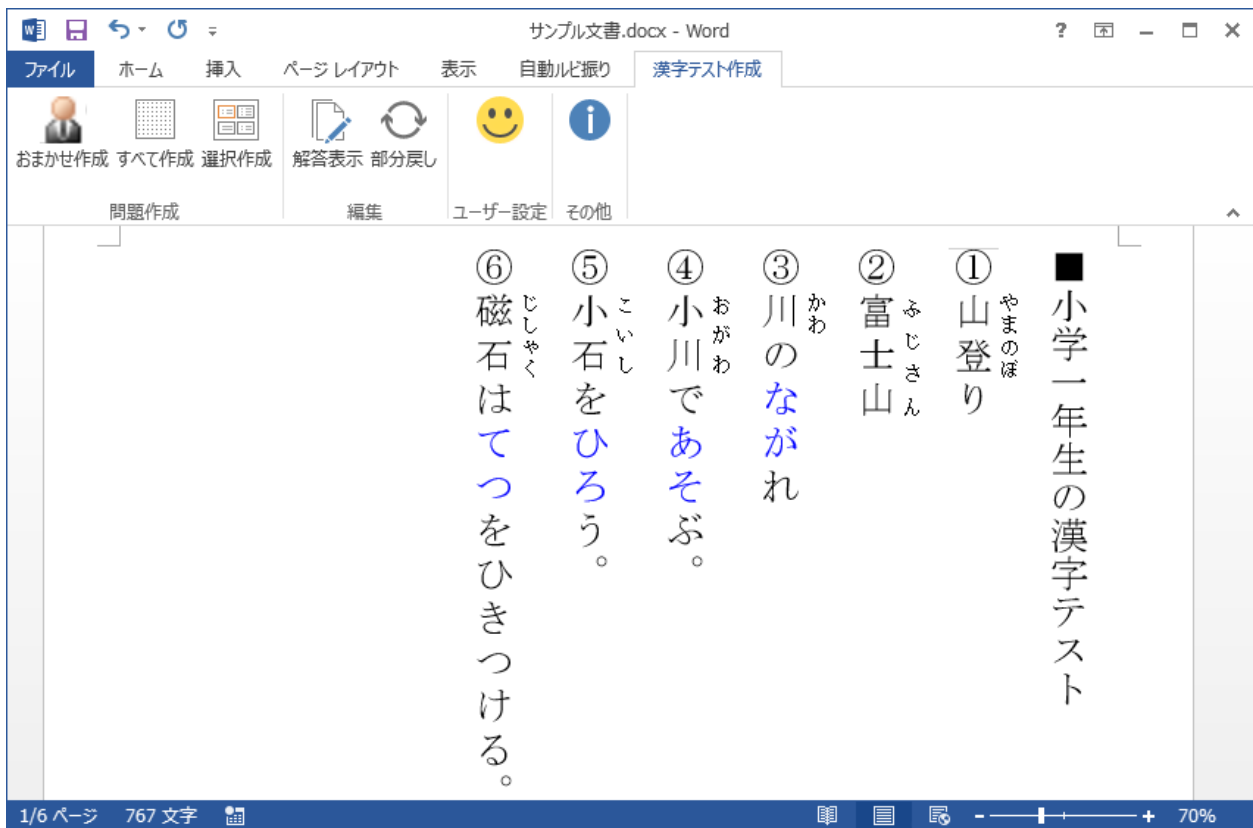


図 4-4 部分戻し操作後の状態

5. 共通操作

[おまかせ作成]、[すべて作成]、[選択作成]、[解答表示]、[部分戻し]、各コマンドに共通の操作です。

5.1. 元に戻す



クイックアクセスツールバーの[元に戻す]コマンド（）をクリックすると、操作前の状態に戻されます。



図 5-1 元に戻す操作

5.2. やり直し

クイックアクセスツールバーの[やり直し]コマンド（）をクリックすると、直前に行った操作はやり直されます。

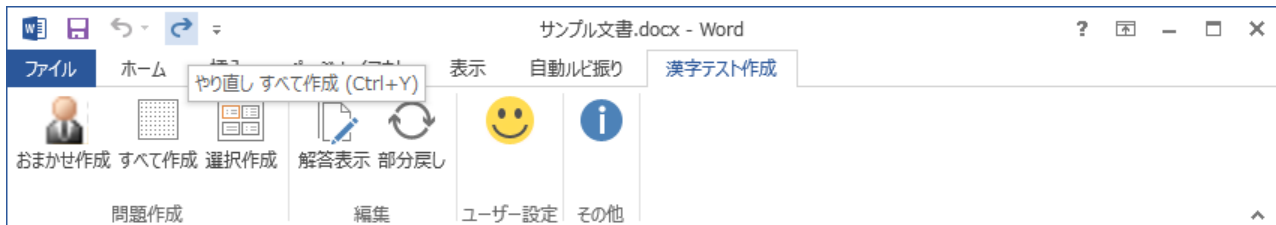


図 5-2 やり直す操作